

2006年度 第11回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年3月13日(火) 午後7時15分～9時10分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：瀧島喜重<以上1名、敬称略>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(3月)
資料 4：2006年度第8回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
資料 5：2006年度第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：2007年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会スケジュール(案)
資料 7：2007年度ボランティア・市民活動推進事業経理区分科目明細表
資料 8：ボランティアセンターニュース(仮称)発行(案)
資料 9：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の具体的な取り組み(案)
資料 10：区市町村ボランティア・市民活動センター 今後の運営に向けた提言

委員長：あと1名、まだ出席していないが、時間になったので始めたいと思う。資料10が追加されているが、今日の会議で使用するものか。

事務局：今日の議題である強化プラン遂行上の課題での参考資料としていただきたい。

委員長：では、報告事項から始める。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、資料1に基づき2月期の業務報告が行われた。

委員長：事務局から報告があったが、質問等はあるか。NPOフォーラムとはどのようなものか。

事務局：64団体のNPO法人が集まって課題などを出し合ったり、名刺交換会のようなものを西東京市NPO法人連絡会で詳細を検討している。また、ボランティア・市民活動センターとしてこの企画を後援するなどPRの面で協力できないかを提案している。

他に質問、意見なく、2月期の業務報告を終了する。

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき2月期のコーディネート状況の報告が行われた。

質問、意見なく、コーディネート状況の報告を終了する。

委員長：続いて、3月の事業予定にうつる。

事務局より、資料3に基づき3月期の業務予定について報告がある。

委員長：ボランティアのつどいに参加した委員に感想を言ってほしい。

委員：毎年趣向が違っているので、常に挑戦しているという感じがする。パネラーの話は非常に勉強になった。パネラー同士の話し合いがあればよかったが、コーディネーターを学生が担当したので、やむを得なかったのではないかなと思う。

委員：ボランティア活動をどうやって行うのかが何となくわかった。活動者の新規開拓はできなかったが、すでに活動している人同士がつながるきっかけはできたのではないかな。

委員：60数名の中で、まったくの新規の人は何人いたのか。

事務局：ファーストステップ、シニア講座の受講者が14名いた。

委員：新たに活動をしようという人がいなかったのがとても残念だった。

委員：総合福祉センターの1階部分は閑散としていて、2階に行ってやっと、ボランティアのつどいをやっていることがわかった。アスタのセンターコートでやればまた違うのではないかな。印象として寂しい感じだった。

委員長：この企画の目標値はどうだったのか。

事務局：目標数値は考えていなかったが、参加者としては200名くらいを考えていた。

委員長：春！体験ボランティアの参加者状況は。

事務局：春！体験ボランティアの申し込み者数は43名だった。今回は、初めての企画実施ということと大学生が春休みになってしまい、チラシを配布するなどのアプローチができなかったことが申し込み者が少なかった原因ではないかなと考えている。

他に質問、意見なく、以上をもって3月期の業務予定の報告を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より第8回災害時のシステムづくり専門委員会（以下、災害専門委員会）会議録を基に災害専門委員会の報告がある。

委員長：2007年度の災害専門委員会の開催数が減ることと、事業の検討内容の報告があったが質問はあるか。

質問、意見なく以上をもって災害専門委員会の報告を終了する。

(3).理事会報告

委員長：ボランティア・市民活動センターに関連する事項では、三菱UFJ銀行からわたあめ機の寄贈があったことにもなったの補正予算案が提出され承認された。

事務局：他には規則の制定改廃を審議していただいた。

委員長：社会福祉協議会が団体に対して行った助成は、先日委員会が開催され14団体中11団体に助成することになったので報告する。

以上をもって2月27日に開催された理事会報告を終了する。

2. 審 議 事 項

(1). 2006年度第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。
委員長：修正箇所はあるか。資料9ページ54行目「センタニュース」は「センタニュース」に訂正するように。

他に修正、削除、追加等の意見なく、上記1箇所を修正し、第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2).2007年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会のスケジュールについて

事務局より、資料6に基づき、2007年度の運営委員会のスケジュールについて2月開催の運営委員会での意見を踏まえ、追加、修正を行い再度提案がある。

委員長：学習会については4月からということになるので、今日検討したほうがよい。時間配分などどのような方法で行うのか。

事務局：2団体ずつで4回をイメージしていた。30分間で2団体ではどうかと思っていた。

委員：7月までに終わらせる理由はあるのか。

事務局：特に7月にこだわるものではない。以前設置されていた西東京ボランティア・市民活動センター強化プラン作成委員会でもこのような形での学習会を行ったことがあるので、それをイメージした。

委員：9月くらいまでは重要な議題も多いようなので、その議題の審議を中心に行ったほうがよいのではないか。7月までに学習会を終わらせる必要はないのではないか。

委員長：1回の運営委員会で1団体ずつの活動紹介を行い、20分間の持ち時間とする。15分間を活動紹介等の話、その後5分間を質疑の時間としたい。順番は委員の50音順とする。4月開催の運営委員会から行うので、それぞれ準備してほしい。

以上をもって2007年度運営委員会スケジュールとすることを確認した。

(3).2007年度西東京ボランティア・市民活動センター予算について

事務局より資料7に基づき、2月開催の運営委員会での審議以降、変更された事項について説明があり、再度2007年度西東京ボランティア・市民活動センター予算について提案がある。

委員長：補助金以外の自己財源はどのくらいか。

事務局：784,500円となっている。

他に質問、意見なく、以上をもって、2007年度西東京ボランティア・市民活動センター予算についての審議を終了し、事務局案が承認される。

(4).ボランティアセンターニュースの発行について

事務局より資料8に基づきボランティアセンターニュース（仮称）の発行案について説明、提案がある。

委員長：発行スタイルは、社協だよりのようなものを全戸配布するということによいのか。

事務局：前回の運営委員会でのいろいろなご意見をいただいたので、それを踏まえて事務局で検討している最中でまだ決まっていないのが現状である。

委員：すべてを掲載することは危険だと思う。このニュースで何をしたいのかを明確にしてもらわないと意見を出せない。

事務局：以前の運営委員会での検討から、事務局では全戸配布とテーマ設定をした内容のものということでの意思統一はされていたが、事務局で再度検討したところその意思統一も曖昧になっている状態である。しかし、誰を対象とするのかということでは一致をして

いる。

- 委員：保存版にするのであれば、資料の内容の項目の上から4つとホームページの紹介をし、団塊の世代を狙ったものにするのであれば特技ボランティアの紹介が加わるのではないかな。
- 委員：スタイルをどうするかがイメージできていないのではないかな。スタイルを先に決めたいほうがよい。東京ボランティア・市民活動センターが発行しているボランティア活動シリーズのようなイメージをもっていた。
- 委員：全戸配布であれば、ボランティア・市民活動センターをとにかく市民に知らせることが大切ではないかな。それを見てボランティア・市民活動センターに来てもらうようにすればよい。誰が見てもわかりやすい内容にする必要がある。たとえば地図を大きく掲載するなどしてもよいのではないかな。
- 委員：ボランティア活動に関心のある人だけではなく、関心のない人も対象とすることが必要なのではないかな。
- 委員長：パンフレットとするのであれば部数を少なくする。チラシであれば、印象を与えるものとして作成することになるのではないかな。インパクトを与えるにはチラシ的にして存在を知らせるようにする必要がある。
- 委員：1回だけのチラシにするのであれば何かのテーマとセットで発行すると印象に残る。たとえば、災害や孤独死などの地域課題を前面に出すことが必要だと思う。
- 委員長：チラシを見てボランティア・市民活動センターへ行こうという気になるものにすればよいのではないかな。
- 委員：2007年問題でのボランティア・市民活動センターの取り組みを掲載するなどしてはどうか。
- 委員：対象を誰にするのか。どのような企画とするのかなどの基本的なものを組み直してほしい。目に留まるものにするのであれば、「ボランティアなんてしたくないよ」というようなタイトルにして、でもこんなことで必要なんだという発想の転換も必要ではないかな。
- 委員：ニュースを見てボランティア・市民活動センターに電話をしてもらうのか、対象を絞って、その人に有益なものを提供するのかになる。中途半端なものではお客さんは来ない。どちらにするかをはっきり決めることが大切。そこそこでやると見過ごされてしまう。お店に置いてあまり手にとってもらえないのが現状だ。
- 委員：チラシにするのであれば夏！体験ボランティアの時期に発行してはどうか。ニュースを見て簡単に参加できるようなタイミングがよい。
- 委員長：たくさんの人に来てほしい。何かあったらボランティア・市民活動センターというイメージをもってもらうことが必要で、まわりからどう見られているかを分析することも必要だと思う。すでにあるイメージを崩して客層を増やすのか、今の支援者層を強調するのか、そのことも考える必要がある。事務局はどのようなイメージをもつのか。
- 事務局：大胆さが必要なのではないかなと思っている。ありきたりのものでは人は集まらないし、目に留まらないことは痛感している。
- 事務局：ボランティア活動が生活の中で大切なのだということがわかるような紙面にする必要があると思う。
- 委員長：資料を見て内容がボランティア活動のみになっている。市民活動を支援しているということを出すのも一つではないかな。
- 事務局：全戸配布というイメージで、とっておいて使ってもらおうというようなものをイメージしていた。
- 事務局：わかりやすく、絵などで表現されているものを作りたい。おそば屋さんのお品書きのようなイメージをもっている。
- 事務局：テーマ設定をして、団塊の世代が手に取ってボランティア・市民活動センターに来てもらえるようなものをイメージしている。
- 委員：NPO推進ネットなどで退職者の資格取得の講座をやっているが、すぐにボランティアをするという人は少ない。起業したいという人が多いような気がする。ボランティア活動はもう少し上の年代になるのではないかな。
- 委員長：定年退職を間近に控えている人に対しては社会的起業という視点で事業を行ってはどうだろうか。
- 委員：西東京ボランティア・市民活動センターに愛称と呼ばれるようなイメージをもたせてはどうか。

委員：愛称を公募してはどうか。

委員：市内の公立小中学校の児童生徒に愛称を応募してもらうことはできないか。

委員：市民とボランティア・市民活動センターとの相互交流がないとだめなのではないか。また、すべてを掲載する必要はなく、詳細はボランティア・市民活動センターへ来てもらってということにしたほうがよい。

委員：市報を集約し多言語化してくらしの情報を発行しているが、発行前に検討した時に他団体の情報紙を集めて検討した。すでに発行されているものを参考にしてはどうか。

委員長：今日の意見を踏まえて、事務局案を出してほしい。

以上の意見を踏まえ、4月運営委員会で事務局案を提出することとし、本日の審議を終了した。

(5) 西東京ボランティア・市民活動センター強化プラン遂行上の課題について

資料10（追加資料）の説明を事務局より行う。

委員長：運営委員も資料10を読んで、ボランティア・市民活動センター運営の参考にしてほしい。資料10はよくまとめられており、これがボランティア・市民活動センターのあるべき姿ではないかと思う。事業の優先順位とアイデアを出して、事業を体系化していきたい。体系案を事務局で作成するか運営委員会が作成するかは事務局と検討したい。

以上をもって、第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。